

30周年記念誌



能海 寛師

能海寛研究会



ごあいさつ

能海寛研究会長 岡崎 秀紀

研究会設立 30 周年おめでとうございます。会員をはじめ、日頃ご理解ご支援を賜っております、地域や関係各位の皆さまに、お礼とお喜びを申し述べたいと思います。

「飲水思源」という言葉をご存知かと思います。「水を飲む者は、その源に思いを馳せよ」という意味です。この 30 年間、能海の故郷に通って参りました。波佐は山紫水明の地に加えて、歴史、和紙など地域産業や文化の面で、他と異なる特徴を有していると、痛感させられてきた地でありました。



私は、この波佐の地域文化振興のルーツは、能海にあると感じております。故郷を愛し、自己の信念に向かって進んだ能海が提唱した、波佐倶楽部（1895）の構想に行き着くのです。地元青年に学習の場を作り、郷土はもとより世界を対象に調査と研究を行ないました。社会教育・生涯学習の先進の姿であり、実際この地から海外に雄飛した青年が輩出しました。

近年の活動でも、継続的に成果をあげることができました。2018 年(H30) 生誕 150 年記念事業では、「能海と世界平和」をテーマに取り上げました。今日世界を見渡しますと、戦争の現実に胸が痛む日々であります。宗教、思想の違いを超えて、平和の構築が切望されているときはありません。先進のテーマでありました。さらには、2019 年 10 月の浜田開府 400 年記念表彰、同年 11 月の山陰信販地域文化賞、2025 年 3 月の 30 周年記念『石峰』第 30 号刊行、また 7 月には記念事業として著名な写真家、登山家による講演会を開催することとしています。本『記念誌』および『石峰』30 号には、創設以来の顕彰と写真で振り返る活動記録 30 年間の足跡、『石峰』寄稿論文の一覧を掲載しております。

能海寛研究会は波佐に誕生し、30 年間で日本の専門的・特徴的な文化団体に育ったと自負しています。地域や研究会の先人に感謝しつつ、過去の思い出を語るばかりでなく、未来の展望を語る 30 周年の年としていただきたく存じます。

チベット巡礼探検家 能海寛の略歴



能海寛像(M32年重慶領事館)

- 明治 元年 5 月 18 日 島根県那賀郡東谷村(浜田市金城町長田)生まれ。
- 明治 10 年 6 月 12 日 広島小教校(進徳教校)に入学する。
- 明治 12 年 10 月 18 日 京都東本願寺にて得度する。
- 明治 19 年 5 月 29 日 京都普通教校へ入学し「反省有志会員」となる。
- 明治 19 年 10 月 29 日 西寮第二号室で級友に西藏探検を公言する。
- 明治 20 年 3 月 3 日 普通教校本科初年級へ編入。
- 明治 21 年 10 月 14 日 E.C.Sを設立。『NEW BUDHIST』を発刊する。
- 明治 22 年 1 月 28 日 大学林文学寮本科2年甲生へ編入する。12月退学。
- 明治 23 年 2 月 3 日 慶応義塾へ入学。『Wisdom and Mercy』を発行。
E.アーノルド、W.ウエストンと交流、指導を受ける。
古河勇と「木石書院」同居自炊生活。
慶応義塾で「土曜会」設立に尽力。
- 明治 24 年 1 月 15 日 哲学館へ転入学する。「二河白道の比喩」を英訳する。
- 明治 25 年 4 月 8 日 各界各層へ働きかけ「釈尊降誕会」設立に尽力する。
- 明治 26 年 7 月 7 日 「純正哲学自解」を著す。哲学館高等科上級を修了する。全国仏教青年会夏期講習会(鎌倉、二見)の会場で「西藏探検の必要」を発表。
- 明治 26 年 11 月 18 日 『世界に於ける佛教徒』を自費出版する。全国の主要書店で販売される。
- 明治 27 年 1 月 3 日 自坊にて、西藏探検に向けて「口代」(遺書)を書き、自髪を切り置く。
- 明治 27 年 7 月 日 京都本山あて西藏探検の上申を行うも日清戦争勃発で探検行は不可能となる。
- 明治 28 年 2 月 18 日 「波佐倶楽部」を設立。世界地誌の学習、中世史の編纂、儉約貯金を推奨する。
- 明治 28 年 8 月 18 日 益田市沖の高島で寺子屋教育(へき地教育の先駆者)を行う。
- 明治 29 年 3 月 日 再び上京して、南條博士宅へ寄留し梵学、中国語を学ぶ。「経緯会」へ運営参画する。
西藏探検行の企画書(嘆願、予定、履歴書)を本山、渥美執事あて、上申する。
- 明治 31 年 6 月 29 日 能海寛、浄蓮寺にて佐々木静子と結婚式を挙げる。9月末に探検行の許可が下りる。
- 明治 31 年 10 月 4 日 能海寛チベット探検のため、家族、地区民に見送られて浄蓮寺を出発する。
- 明治 31 年 11 月 12 日 神戸港を出航、中国上海へ、チベット探検に向かう。3回の探検で12,000km踏破。
- 明治 32 年 1 月 9 日 三峡を通過する際に『官和記1号』に、スケッチ52点を書き表す。峨眉山へ登頂。
- 明治 32 年 9 月 27 日 金沙江(牛古渡)まで行き、無念の歌「のぞめども・・・」を詠み、スケッチを描く。
- 明治 32 年 11 月 20 日 12月16日まで「丙第五号」へ西藏仏像43体をスケッチする。仏典・仏具を将来。
- 明治 33 年 1 月 11 日 「般若心経」、2月18日「金剛経」、3月31日「弥勒菩薩誓願経」、4月25日「西藏ボン教の無量寿経」など5巻を4か国語に翻訳。多くの旅行記・紀行文・拓本を残す。
- 明治 34 年 4 月 18 日 南條文雄博士あて最後の音信の日付を能海寛の命日としている。
- 明治 36 年 5 月 16 日 哲学館より「講師」の称号が寛の生前の業績に対して贈られる。
(哲学館卒業後10年経過し、卓越した業績を残した者へ贈呈される)。
- 大正 6 年 4 月 30 日 17回忌法要を記念して能海寛追憶会(私立真宗大谷大学内)では、寺本婉雅が編纂責任者となり『能海寛遺稿』を出版。能海寛17回忌法要が浄蓮寺で執り行われる。寺本婉雅が赴き、記念講演を2座務める。大谷大学においても17回忌法要が執り行われる。
- 昭和 17年11月 4 日 付け本山より西藏探検で殉職した寛に対し『大僧都』が伝達される。
- 昭和 17年 12 月 5 日 能海寛の40回忌法要が勸修される。

能海寛研究会 30年の歩み

【研究会の設立】

能海寛の地元で永年顕彰・研究活動を続けていた波佐文化協会が発起して、全国に研究会の発足を呼びかけ、平成7年1月22日、ときわ会館に於いて「能海寛研究会」が設立された。

研究会設立には、島根県立国際短期大学はじめ、中村元氏(日本学士院会員)、山口瑞鳳氏(東京大学名誉教授)の支援を受けて船出した。初代会長は、横田禎昭氏(県立国際短大教授)。副会長は、稲見昌浩氏(国際短大助教授)、水崎斉氏(金城町誌編集委員長)。事務局は、波佐文化協会内に置くこととなった。



研究会発会式の模様

【会の目的】

能海寛の業績を通して、日本とチベットの関わりを学びつつチベットや中央アジアの文化全般についての理解と認識をもち、能海寛研究の全国ネットワークを構築して情報交換並びに資料収集を量り、併せて能海寛の業績を顕彰することを目的とする。



幹事会の模様

【各種事業】

年次大会 (1995年7月～2025年7月)

平成7年7月18日に能海寛研究会年次大会(80名参加)を開催して、年次総会、会員研究発表、記念講演会を開催。令和7年7月の年次大会で、31回目を迎える。この間、記念講演は、30回開催した。詳細は、機関誌『石峰』第30号(2025.3.15刊)で掲載しております。



第1回年次大会記念講演(江本嘉伸氏)

第2回記念講演(村上護氏)

第3回記念講演(中村保氏)



第5回特別講演(澄田信義氏)



第6回記念講演(内藤正中氏)



第14回記念講演(白須浄眞氏)



第11回年次大会発表者



第11回年次大会発表者



第16回年次大会発表者



第18回年次大会発表者



第20回年次大会(講師：久保田章市氏)

定例学習会 (1995年3月～2025年) 毎年、奇数月に開催。

平成7年3月に第1回定例学習会を開催。以後、今日まで30年間で181回ほど開催。能海寛資料の調査・研究・活字化を行い、機関誌『石峰』で発表して来た。



第1回定例学習会の後、顕彰碑訪問



第6回定例学習会(講師：稲見正浩氏)



定例学習会の模様



第7回定例学習会(講師：仲市實氏)



第8回定例学習会の模様



第100回記念定例学習会の模様

移動学習会

能海寛研究会員が全国各地におられるので、能海寛の縁の地をたずねて、移動学習会を行ってまいりました。2002年には、龍谷大学で、「国際チベット研究シンポジウム」(12名参加)。2010年には、別府市・大谷記念館を訪問して学習会。2012年には、田辺市・南方熊楠顕彰館を訪問して学習会。2013年には、松江市・中村元記念館を訪問して学習会。2015年には、東京・東洋大学にて学習会を開催した。



95回・大谷記念館(別府市)



111回・中村元記念館(松江市)



119回・東洋大学(東京都)

研修旅行

定例学習会を兼ねた研修旅行は、平成7年には「滋賀県・西堀栄三郎記念探検の殿堂」、「大谷大学図書館」へ23名の参加で実施した。8年度は「秦記念館」、「森鷗外記念館」へ16名で訪問した。



西堀栄三郎記念探検の殿堂



同殿堂・能海寛資料の前で



大谷大学博物館・能海寛の将来品



秦記念館前



76回(東京プレスセンター)



東洋大学シンポジウム(2018年)

【能海寛資料の研究活動】



能海寛新資料の発見で記者会見

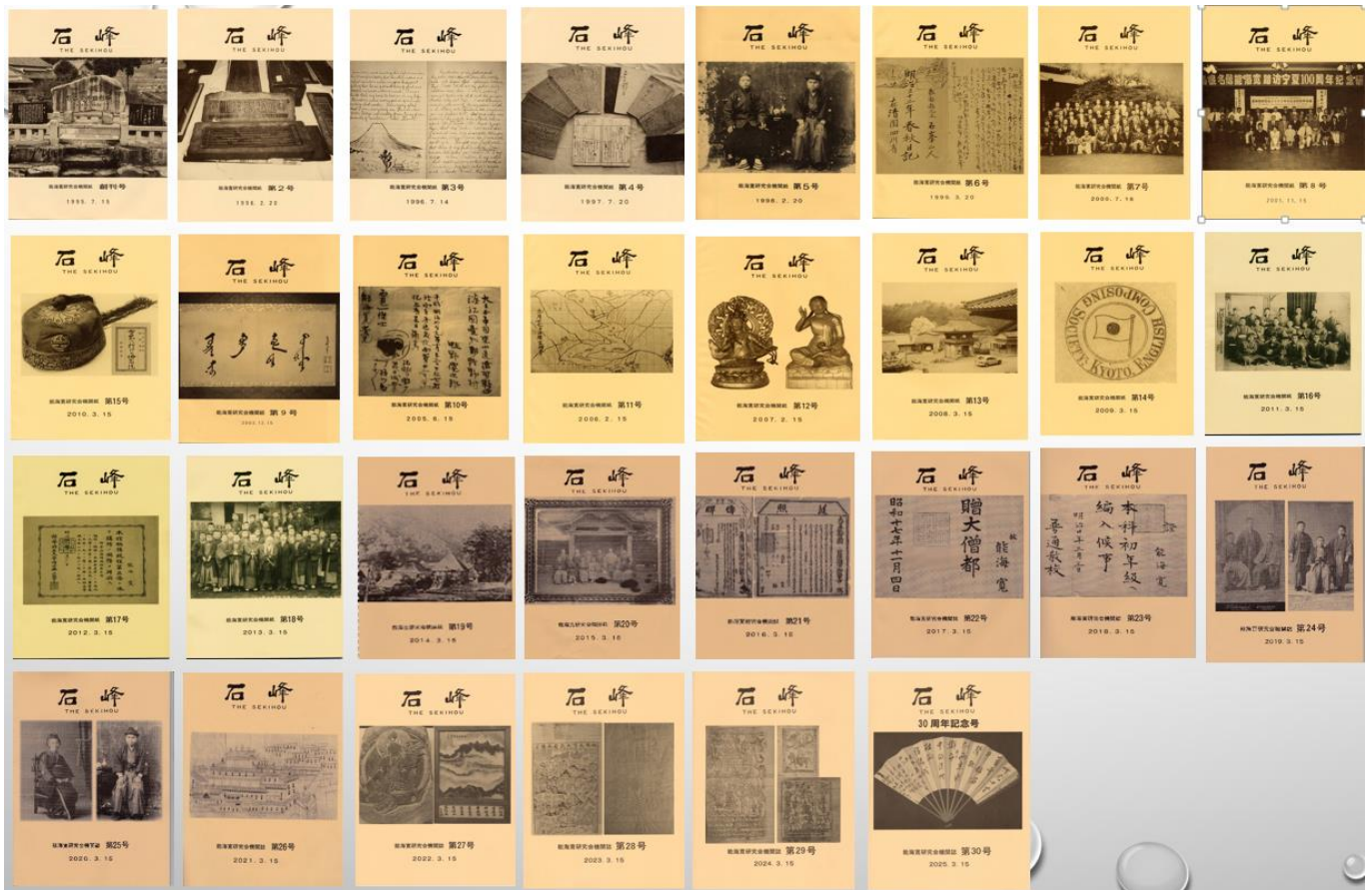


新資料を見る横田会長と中村・江本顧問

機関誌『石峰』創刊号（1995年）～第30号（2025年）発行

機関誌の題名は、能海寛の雅号「石峰」から名付けて、平成7年7月創刊号を発刊。以後、毎年機関誌を発行し、30号まで発行した。

この間に、会員の42名から198件の研究論文など掲載しております。海外(中国、仏国、内モンゴル)からも6名、19件の論文を掲載しました。



能海寛チベット壮途100年記念

① 世界の写真展「地平線発」—21世紀の旅人たちへ—開催（1998年3月7日～15日）

能海寛がチベットへ旅たった明治31年から数えて100年目に応答する平成10年に、能海寛の目指した世界へ飛躍する冒険・探検家達が世界へ羽ばたき、命がけで撮影した世界の貴重な「世界の写真展」を波佐文化協会と本研究会が共催で開催した。写真展に併せて、エクス和紙の館で、本会顧問の江本嘉伸氏が「『日本人の旅途冒険』～21世紀に向けて」と題して記念講演会が開催された。



「世界の写真展」の様

② 石見の国「国際フォーラム」開催（1998年7月12日）
 第一部【特別対談】『60年前のチベット体験』野元甚蔵&江本嘉伸
 第二部【パネルディスカッション】『人はなぜ旅に出るのか』
 ～日本の冒険家・探検家・登山家5名によるフォーラム～



江本嘉伸、野元甚蔵、河田真智子、中村保、永瀬忠志の皆さん



フォーラム「旅と冒険」参加の皆さん



「能海寛の像を作る部会」で全身像（彫塑）完成除幕式・金城町へ寄贈（1999年）

能海寛記念館建設の機運が盛り上がるなかで、能海寛の全身像を彫塑で製作しようと会員の有志で能「能海寛の像を作る会」を結成して、金城町在住の岡堂義武氏に製作を依頼した。平成11年に完成して、5月15日に完成除幕式を挙げ、金城町へ寄贈した。展示場所は、能海寛の歴史資料が展示してある、金城歴史民俗資料館へ設置された。この当時は、記念館が出来た暁には、ブロンズ像に置き換える事になっていた。



彫塑の製作現場訪問



完成除幕式で感謝状を贈呈



澄田信義島根県知事

能海寛寧夏回族自治区訪問100周年記念（2000年8月19日）

①「能海寛研究会2000年・日中合同世界会議」（銀川市外事弁公室）開催

目的：①能海寛の研究を寧夏回族自治区銀川市で開催し、能海寛の寧夏での行動をはじめ人物像の研究結果を発表する。②島根県とりわけ能海寛の出身地・金城町と寧夏との知的国際交流の契機とし、友好交流をさらに深める。③島根県と寧夏回族自治区の高校生、教職員に参加を求め、高校生同士の相互研究を通じて人間的、文化的交流と理界を深める。

会場：寧夏回族自治区外事弁公室第一会議室。講演：横田禎昭会長、姚詩氏（中国・会員）。特別講演：陳育寧氏（銀川市書記・歴史学者）、李範文氏（寧夏社科院研究員）。



日中合同世界會議(外事弁公室)



陳育寧銀開①書記より書を贈呈される

②「日中友好交流記念パーティ」（銀川市）開催（2000年8月19日）

会場：中国・寧夏回族自治区銀川市清真レストラン。中国側から32名。日本側から23名参加。



友好紀念祝賀パーティ



外事弁公室前で記念撮影



銀川一中の訪日・歓迎の夕べ(2001年・きんたの里)



「日中合同世界會議」参加の皆さん

能海寛のふるさと 100km トレイルとおあし大会支援

能海寛のふるさと 100km ウルトラ(とおあし) 試走会支援 (2003 年)

能海寛のふるさと 100km トレイル遠足(とおあし) 大会支援 (2004 年)

能海寛のふるさと 100km トレイル遠足(とおあし) 大会支援 (2005 年)



全国 28 府県から 180 人の参加者



前夜祭の様(地元のサポーター・調理スタッフ)

午前 5 時スタートの様(ときわ会館)



16箇所のエイドステーションにて(サポーター・スタッフ)

能海寛歌碑めぐりウォーク大会支援 (2007年～2019年)

能海寛が中国・巴塘で詠んだ「波佐八景」と2首の歌を詠んだものを2005年4月18日に歌碑10基に刻み「能海寛歌碑めぐりウォーク」を2006年からスタートした。



13年間開催された「歌碑めぐりウォーク大会」を支援

『能海寛著作集』全15巻(17冊)・別冊1巻(索引・1冊)発刊(2005年～2010年)

能海寛の資料は一世紀前の紙データの為、和紙で墨書きの資料は大丈夫であっても、西洋紙の場合は紙が摩耗し折れ目から劣化して行くため、本会の学術顧問の歴史家の金子民雄氏の勧めがあり、能海寛の記述資料全てを印影印刷して、今後100年後までも保存活用が可能となる図書を発刊することが平成17年の年次総会で承認され、新潟の「うしお書店」と交渉して、直ちに着手した。5年の歳月をかけて完成した。

(全巻収録内容)第1巻「能海寛業績全記録Ⅰ」解説：金子民雄、第2巻「能海寛業績泉記録Ⅱ」解説：金子民雄、第3巻「春秋日記」解説：金子民雄、第4巻「中国巡礼探検記録Ⅰ」解説：金子民雄、第5巻「中国巡礼探検記録Ⅱ」解説：金子民雄、第6巻「寄稿論文など」解説：奥山直司、第7巻「能海寛 往復書簡Ⅰ」解説：隅田正三、第8巻上「能海寛往復書簡Ⅱ」解説：隅田正三、第8巻下「能海寛往復 書簡Ⅱ」解説：隅田正三、第9巻「能海寛往復書簡Ⅲ」解説：金子民雄、第10巻「手帳記録と第一次探 検記録」解説：金子民雄、第11巻上「大学講義録と民俗」解説：横田禎昭、第11巻下「大学講義録と 民俗」解説：横田禎昭、第12巻「嘆願書と上申報告書」解説：金子民雄、第13巻「英文日記と機関誌」 解説：岡崎秀紀、第14巻「フィールド・ノートなどⅠ」解説：隅田正三、第15巻「フィールド・ノ ートなどⅡ」解説：隅田正三。別巻1「総合索引」編著：隅田正三。『能海寛著作集』全15巻(17冊)、別巻1冊2010年3月完結



『能海寛著作集』完成により2010年3月13日、報道記者発表会を開催(ときわ会館)

「チベットセミナー」13回開催(2013年～2025年)



第4回チベットセミナー(2016年)



第5回チベットセミナー(2017年)

能海寛生誕150年記念事業
記念式典&シンポジウム「世界仏教への道」

日時 平成30年7月8日(日)

会場 ときわ会館(波佐公民館)大集会室
浜田市金城町波佐イ441-1

・記念式典 10:30~11:30
能海寛の人生と業績(映像視聴)

・シンポジウム 13:00~17:00

・基調講演
「能海寛が日本の若者に伝えたかったこと」
講師:江本嘉伸氏(ジャーナリスト)

・パネルディスカッション
「今、能海寛から学ぶもの」

コーディネーター:江本嘉伸氏
パネリスト:岡崎秀紀氏(能海寛研究会会長)
パネリスト:奥山直司氏(高野山大学副学長)
パネリスト:飯塚勝重氏(東洋大学客員研究員)
パネリスト:高本康子氏(北大スラブ研究センター)
パネリスト:能海教信氏(浄運寺住職)

能海寛生誕 150 年記念シンポジウム

日時 平成30年7月8日(日)
会場 ときわ会館大集会室 浜田市金城町波佐イ441-1

第一講 基調講演 10:30~11:30
演題 「能海寛が日本の若者に伝えたかったこと」
—「海平線集巻(1) 中巻—
講師 江本 嘉伸 氏 (ジャーナリスト「海平線集巻」の著者)

第二講 パネルディスカッション 13:00~17:00
テーマ 能海寛から学ぶもの
コーディネーター
江本 嘉伸 氏 (ジャーナリスト)

パネラー
岡崎 秀紀 氏 (能海寛研究会会長)
奥山 直司 氏 (高野山大学副学長)
飯塚 勝重 氏 (東洋大学客員研究員)
高本 康子 氏 (北大スラブ研究センター)
能海 教信 氏 (浄運寺住職)

入場無料
申込不要

主催:能海寛研究会 (公益財団法人) 能海寛研究会事務局 080-4860-2943



【受賞歴】

- 金城町長表彰 (2005年)
- 「島根県民いきいき活動奨励賞」(2015年)
- 「浜田開府400年祭実行委員会表彰」(2019年)
- 「山陰信販地域文化賞」(2019年)



NPO・ボランティア
部門



の うみ ゆたか
能海寛研究会

浜田市



◆活動内容

浜田市金城町波佐地区出身のチベット巡礼探検家能海寛の足跡について、平成7年から調査・研究活動を行っています。その研究成果は国内外で高く評価され、多くの研究者が研究発表のため定期的に浜田市を訪れるほか、歴史資料の保存・活用にも尽力し、後世への伝承に努めています。また、地域住民に広く学習の機会を提供したり、小・中学校でのふるさと学習を行い、郷土の偉人を顕彰し、地域活性化に貢献しています。

◆活動において評価された点

- ・全国的に評価の高い研究であるとともに、地域にもこだわりを持って活動をしている。
- ・長年にわたり調査・研究し、セミナー等を開催している。
- ・小・中学生へのふるさと学習など次世代へも継承されるなど、住民への啓発もしっかりなされている。

受賞者のコメント

ふるさとの偉人能海寛の研究・顕彰活動をして、今年が満20周年。折しも「県民いきいき活動奨励賞」のご褒美をいただき華を添えていただきました。全国の会員と喜びを分かち合いたと思います。「能海学」を推進するために機関誌「石峰」の発行、定例学習会、チベットセミナーの開催を通して、能海寛が目指していた地域力を醸成する活動に向かって「学べる博物館づくり」を推進してまいります。

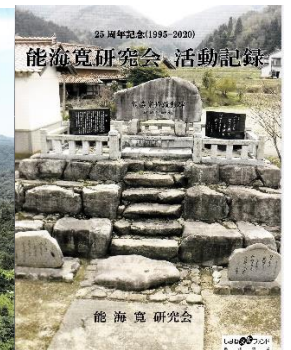
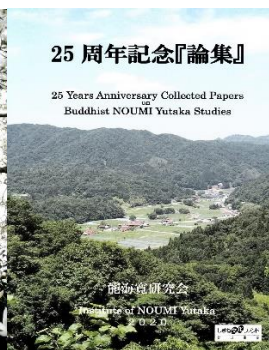
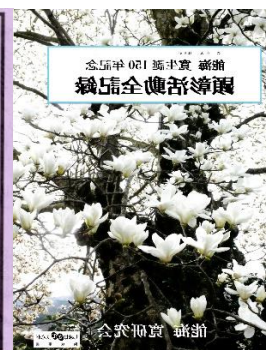
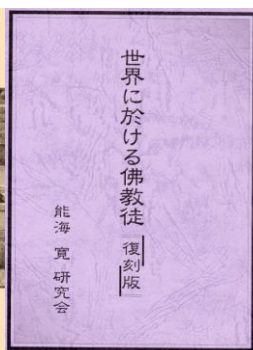


T697-0211
浜田市金城町波佐イ394 波佐文化協会内
能海寛研究会
TEL.0855-44-0010(事務局) FAX.0855-44-0010
E-mail sekihou@hazaway.com
活動紹介ホームページ <http://hazaway.com>

5

【出版物】

- ① 機関誌『石峰』創刊号（1995年）～ 第30号（2025年）
- ② 『世界に於ける佛教徒』能海寛著（復刻版）発刊（2002年）
- ③ 『能海寛著作集』全15巻17冊、別巻(索引)1冊発行(2005年～2010年)
- ④ 『能海寛生誕150年記念顕彰活動全記録』（2018年）





あとがき

全国の会員の皆様方に支えられ、ご支援を得た 30 年間であった。あっという間に過ぎ去った。それ程充実していたということである。30 年間の記録を振り返りながら全国から石見の遠隔地まで足を運んで年次大会へご参集いただいたことに衷心より感謝申し上げます。全部の事象を掲載できませんが、機関誌『石峰』やホームページ <http://hazaway.com/culture/noumi-yutaka/> などで詳細をご覧くださいませようお願いします。

今回の記念行事「チベット登山・探検の明治と現代」—能海寛と河口慧海— 「基調講演とチベット登山・探検トーク」は、機関誌『石峰』第 31 号で詳細を掲載し、ご報告したいと考えております。 (能海寛研究会事務局)

『能海寛研究会 30 周年記念誌』

発行日 令和 7 年 7 月 10 日
 発行者 能海寛研究会
 〒697-0211 島根県浜田市金城町波佐イ 394
 e-mail : sekihou@hazaway.com
 郵便振替口座 01430-9-91189

《能海寛研究会 30周年記念講演会》

「チベット登山・探検の明治と現代」

— 能海寛と河口慧海 —

第一部 基調講演 (13:00 ~ 15:00)

- ① 「8000メートル峰の世界を語る」 石川直樹氏 (写真家・登山家)
- ② 「西藏系出雲族の伝説」 渡部秀樹氏 (登山家・チベット山岳文化研究者)

第二部 チベット登山・探検トーク (15:00 ~ 16:30)

- パネリスト 石川直樹氏・渡部秀樹氏
- ファシリテーター 岡崎秀紀 (能海寛研究会会長)



能海寛

日時 令和7年7月20日(日) 13:00~16:30

会場 波佐まちづくりセンター
(浜田市金城町波佐イ 441-1)

定員 100名 (要事前申込・先着順)

主催 能海寛研究会



石川直樹氏



渡邊秀樹氏

写真は、天頂山浄蓮寺とハクモクレン



能海寛研究会ホームページ
機関誌『石峰』のアーカイブ

能海寛の将来品